

五反野第2
スカイハイツ自治会
地区防災計画

令和5年8月

五反野第2スカイハイツ自治会

目 次

1 地区防災計画とは	1
(1) 地区防災計画の目的と位置づけ	1
(2) 地区防災計画の対象、範囲等	1
(3) 地区防災計画の構成.....	2
(4) 実践と検証.....	3
2 地区特性.....	4
(1) 地区の成り立ちと現況.....	4
(2) 地震の被害想定	9
(3) 水害の被害想定	12
3 地震発生時の対応シナリオ	17
(1) 地震発生時の対応シナリオ	17
(2) 地区防災マップ	17
(3) 話し合いによる検討	22
4 水害時の対応シナリオ.....	28
(1) 水害が予想される場合の防災行動の概要	28
(2) 水害が予想される場合の対応シナリオ	28
(3) コミュニティタイムライン	33
5 五反野第2スカイハイツ自治会における平時の備え.....	35
(1) 事前対策リスト	35
(2) 体制づくり	37
※ 様式・資料編.....	40
資料1 様式集	41
参考様式1 緊急時連絡先一覧表	41
参考様式2 備蓄品リスト.....	42
参考様式3 自治会年間スケジュール.....	43
参考様式4 防災区民組織名簿	44
資料2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災アプリ」	45
資料3 A-メール（足立区メール配信サービス）	45
資料4 あだち安心電話.....	46
資料5 防災無線のテレホン案内	47
資料6 足立区 LINE 公式アカウント	47
資料7 五反野第2スカイハイツ防災知識1（2020年保存版）	48

1 地区防災計画とは

(1) 地区防災計画の目的と位置づけ

私たちの住む地域は、建物が密集し、古い建物や木造の建物が点在しており、震災時の倒壊や火災の延焼の危険性が高い地区です。また、震災時に利用できる道路が狭く、身近な広場や公園が不足するなど、東京都の地域危険度などの調査でも地震被害における危険度が高い地域です。

また、当地域は、南に荒川、東に綾瀬川が流れており、台風や大雨の際には洪水による水害の危険性が高い地域でもあります。

一方で、東日本大震災や熊本地震などの近年の災害においては、地域住民自らによる「自助」、地域コミュニティによる「共助」が、避難行動、避難誘導、避難所運営等において重要な役割を果たしています。

そこで、五反野第2スカイハイツ自治会では、自助・共助による地域防災力を向上させ、地区の被害を軽減することを目的に、「五反野第2スカイハイツ自治会地区防災計画」を策定しました。

地区防災計画は、災害が起きることを想定し、そのための準備と災害時の自発的な行動を検討し、私たち地区に居住する者が自らつくる計画です。
今後、必要に応じて改定していきます。

(2) 地区防災計画の対象、範囲等

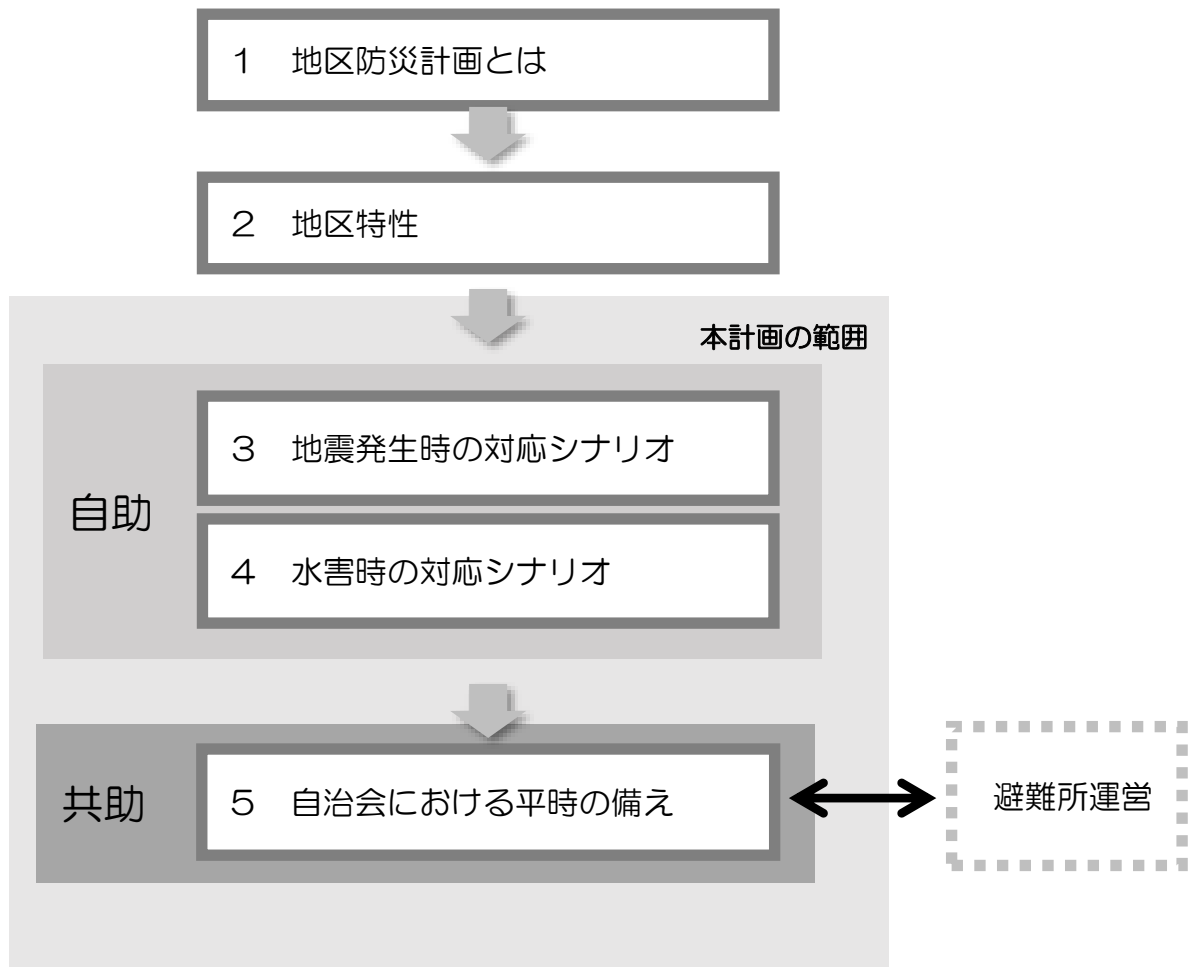
対象とする災害	地震・水害 〔 令和3年度は地震に重点をおいて検討 水害についても記述あり 〕
対象とする範囲	五反野第2スカイハイツ自治会 (第一次避難所、避難場所への避難経路も対象)
対象者	五反野第2スカイハイツ自治会の居住者、事業者など自治会内にいるすべての人
対象時期	地震発生時～初動活動～避難行動

(3) 地区防災計画の構成

本計画では、「2 地区特性」で自分たちの地域について知るための資料を整理し、「3 地震発生時の対応シナリオ」、「4 水害時の対応シナリオ」で地域住民自らによる「自助」、すなわち、地震や水害が発生した場合にどこに、どのように避難するかを整理するとともに、当自治会の地区防災マップを作成しました。

「5 自治会における平時の備え」では、自治会及び地区住民等において進めるべき「共助」の考え方、平常時において準備しておく事項等を記載しました。

最後に、資料として情報収集の手段について記載しています。

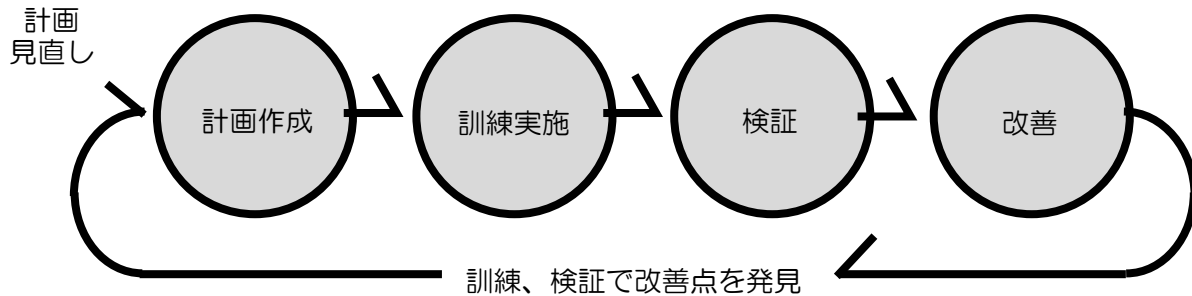


注) 本計画では、地震については、発生直後から、避難するまでの考え方や手順を整理し、避難所を設置したのちの避難所運営は、他の計画（避難所マニュアル等）に従うこととします。

(4) 実践と検証

計画を形骸化させないための取り組みを以下のように行います。

実践と検証の流れ



実践

計画に基づいた防災訓練を行います。

■防災訓練

避難時の訓練	応急訓練	避難後の訓練
<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練 ○避難所・避難路・避難場所等の確認 ○避難経路上の危険箇所の確認 ○要配慮者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○初期消火訓練 ○救急応急措置訓練 (心肺蘇生法・AED講習等) ○防災資機材取扱訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所開設訓練 ○避難所運営訓練 (給食・給水、情報の収集・共有・伝達、物資配給対応等)

※訓練は、区や消防署、消防団、各種団体や地元企業等と連携したものとすると、より実効性が高まります。

検証

防災訓練の結果について、区職員等を交えて検証を行い、課題を把握して活動を改善します。

- 活動の対象範囲や活動体制(役割分担)を変える必要はないか
- 地区における重要なことに変化はないか

- 長期的な活動予定に変更はないか
- 実際の活動が実体のあるものになっているか
- 防災訓練、備蓄等の事前対策、教育・研修等が十分に行われているか

実践と検証を通じて、計画の実効性を確保します。
必要に応じて、計画の見直し、追加等を行います。

見直した場合は、自治会を通じて区に報告するとともに、説明会やチラシ等により地区住民等の皆さんに報告します。

2 地区特性

- 地形；基本的に、低地に土盛りしたり水面を埋め立てた盛土・埋立地であり、地震時には揺れやすい場所です。
- 地震の被害想定；首都直下地震（マグニチュード 7.3 規模）の発生確率は、今後 30 年以内に 70%といわれており、震度 6 強の揺れが想定されています。
- 水害の被害想定；荒川が氾濫した場合、3～5mの浸水が 1 週間程度継続すると想定されています。

(1) 地区の成り立ちと現況

① 地形

地区の東側約 1/3 はまわりよりもわずかに高い自然堤防が形成されている土地であり、西側約 2/3 は低地に土を盛った平坦地や水面を埋めた平坦地である盛土地・埋立地となっています。

盛土地・埋立地は、軟弱な粘土やシルト*が厚く分布しているため、地震時には揺れやすいとされています。

※シルト：砂より小さく、粘土より粗い破屑物（岩石が壊れてできた破片・粒子）をシルトと言います。

■土地条件図

水面

自然堤防
(洪水時に運ばれた砂等が、流路沿いに堆積してできた微高地)

盛土地・埋立地
(低地に土を盛って造成した平坦地や、水面を埋めた平坦地)



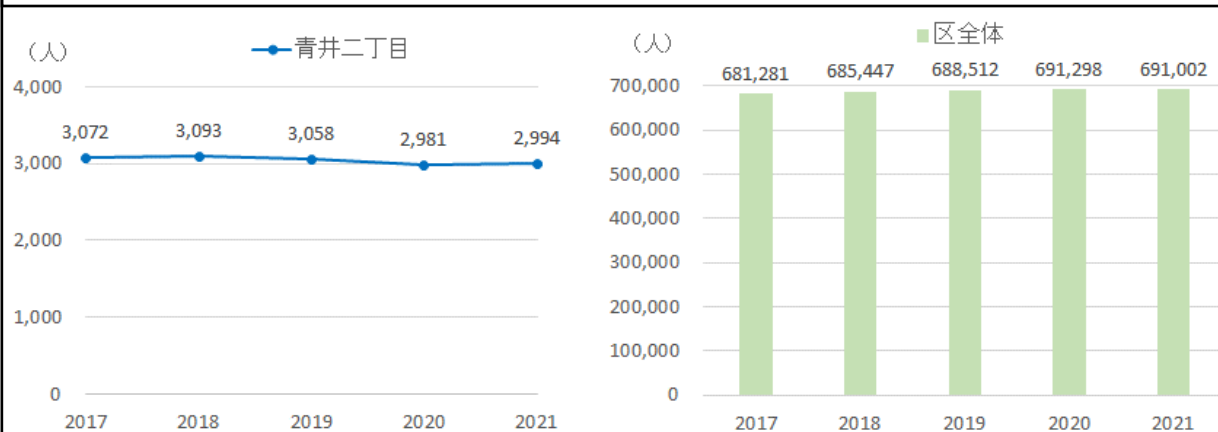
出典：国土地理院「数値地図
25000 (土地条件)」

② 人口・世帯数

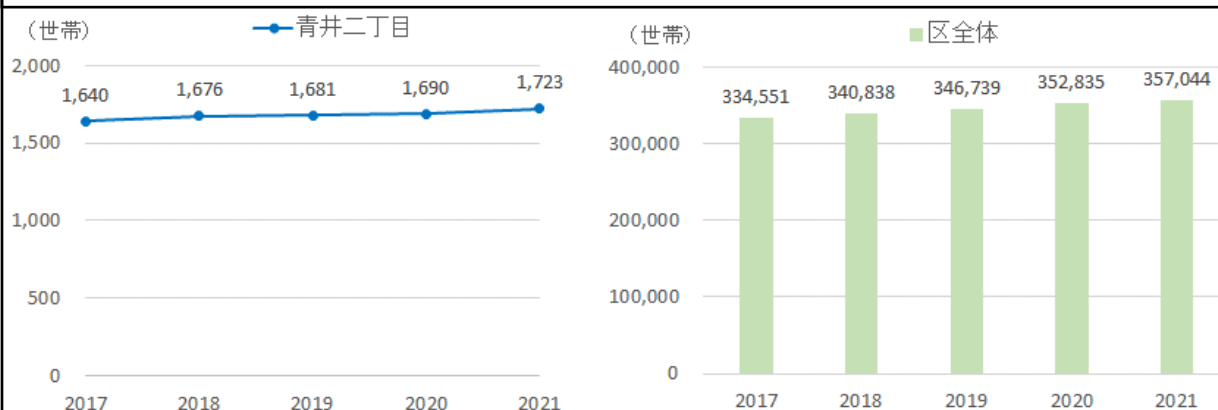
青井二丁目の人口は 2,994 人、世帯数は 1,723 世帯となっています（住民基本台帳、令和 3 年 1 月 1 日現在）。

最近 5 年間の推移を見ると、人口はやや減少、世帯数はやや増加傾向にあります。

<人口>



<世帯数>

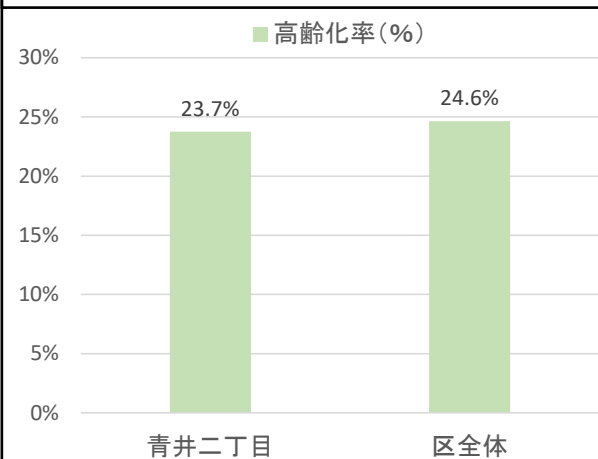


出典：住民基本台帳

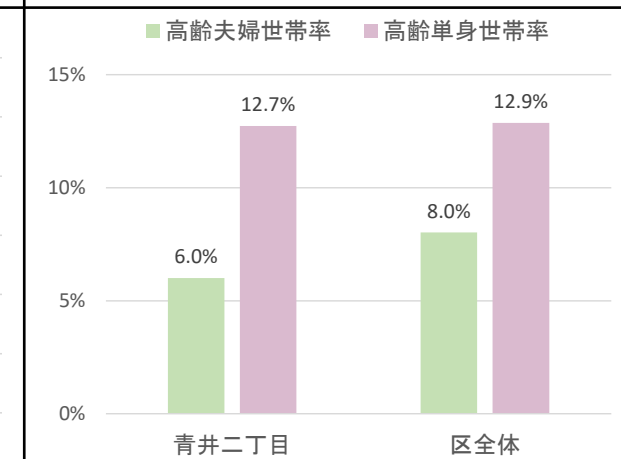
③ 高齢化（65歳以上の人口）の状況

青井二丁目の高齢化率（平成 27 年）及び高齢単身世帯の割合は、区全体の値とほぼ同じ水準にあります。また、高齢夫婦世帯の割合は区全体より低い状況にあります。

<高齢化率>















<高齢者世帯の状況>

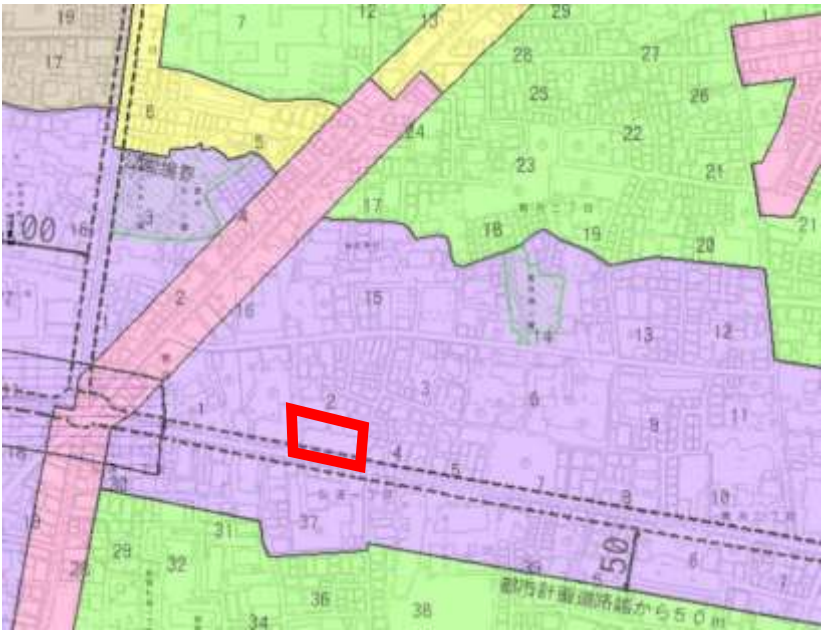


出典：平成 27 年国勢調査

④ 用途地域都市基盤

地区内はすべて準工業地域に指定されています。

用途地域	
	第一種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第二種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	準住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域(特別工業地区)
	準工業地域
	工業地域
	工業専用地域






























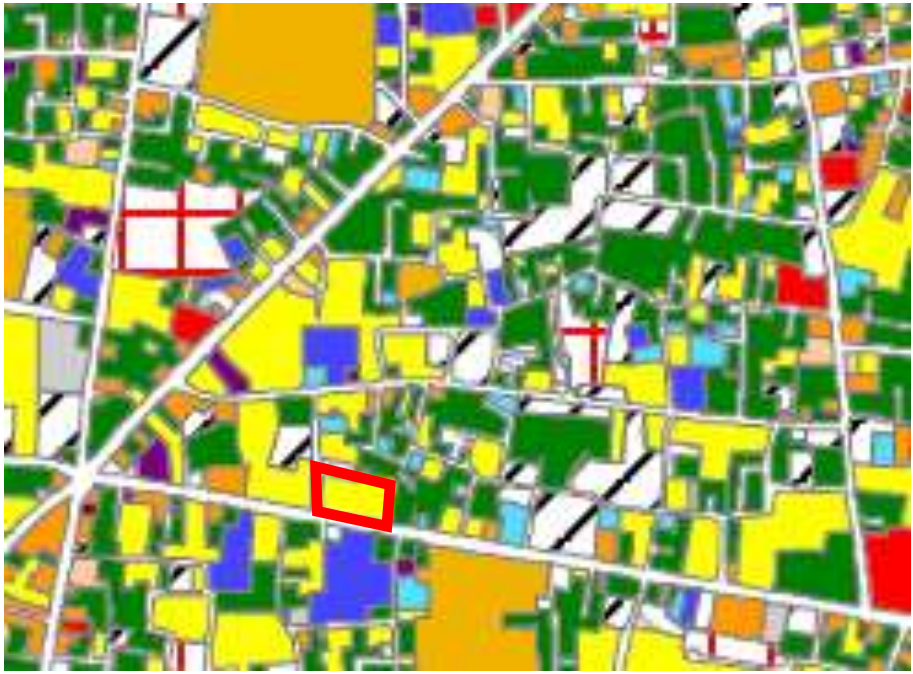
準工業地域 ; 主に軽工業の工場やサービス施設等が立地する地域。
危険性、環境悪化が大きい工場は建設できない。

出典：「用途地域等指定図」

⑤ 用途別建物現況

建物用途は、集合住宅となっています。

凡例	
	官公庁施設
	教育文化施設
	厚生医療施設
	供給処理施設
	事務所建築物
	専用商業施設
	住商併用建物
	宿泊・遊興施設
	スポーツ・興行施設
	独立住宅
	集合住宅
	専用工場
	住居併用工場
	倉庫運輸関係施設
	農林漁業施設
	屋外利用地等
	その他
	公園・運動場等
	未利用地等
	道路
	鉄道・港湾等
	田
	畑
	樹園地
	水田・河川・水路
	原野
	森林



出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

⑥ 構造別建物現況

住宅の構造としては耐火造となっておりますが、周囲には木造建物も点在しています。

<凡例>

■ 耐火造

主要な構造部分（柱・梁・壁・屋根等）が鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、耐火被覆した鉄骨造、れんが造、石造等でできているもの

■ 準耐火造

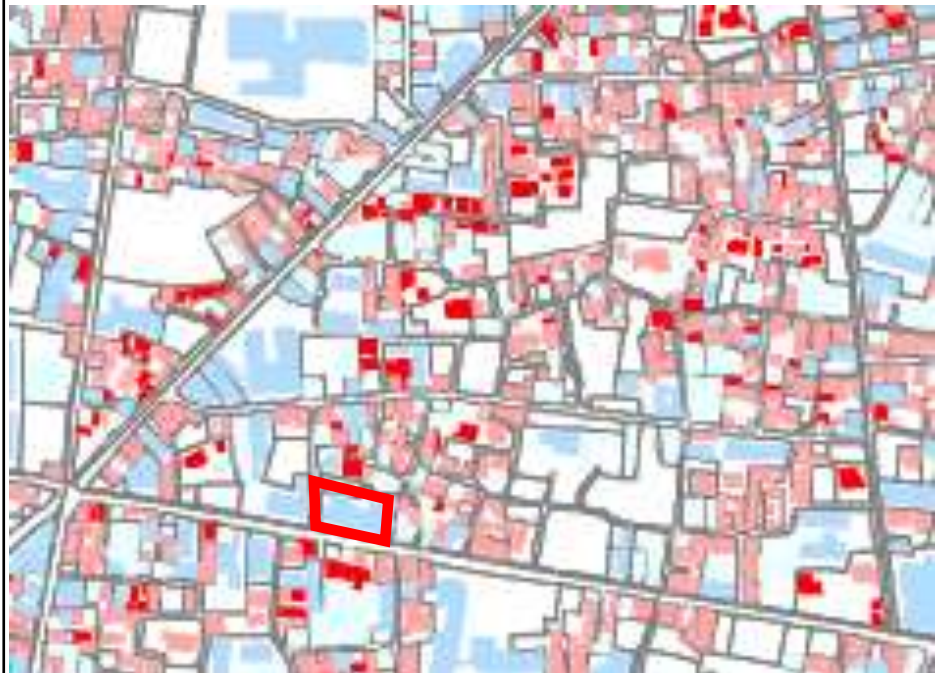
外壁が耐火造で屋根がコンクリート等の不燃材料できている、または柱及び梁が不燃材料で外壁及び屋根等が防火造できているもの、または木造以外で耐火造に属さないもの

■ 防火造

柱及び梁が木造で屋根及び外壁がモルタル、漆喰等の準不燃材料できているもの

■ 木造

主要な構造部分が木造で上記のいずれの区分にも属さない防火性能の低いもの



出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

⑦ 階数別建物現況

建物は、中層階（4～7階）となっております。

<凡例>

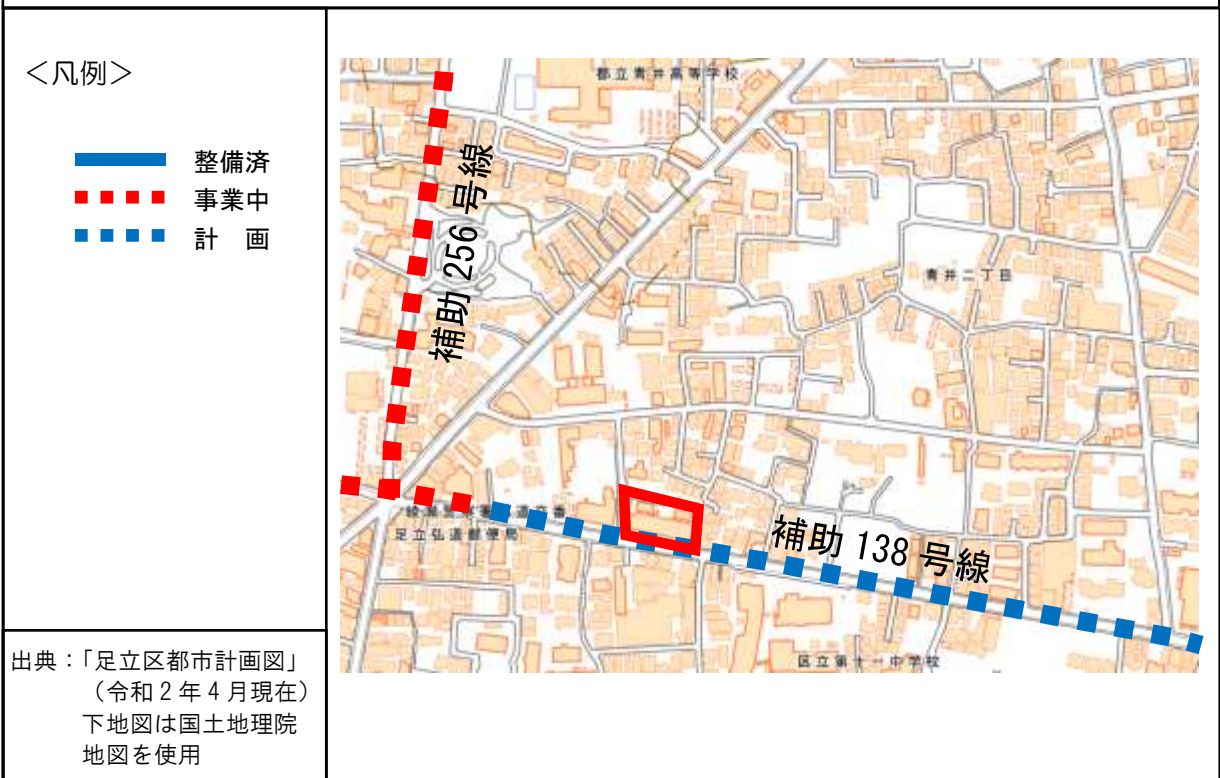
- 1階
- 2階
- 3階
- 中層階（4～7階）
- 高層階（8階以上）



出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

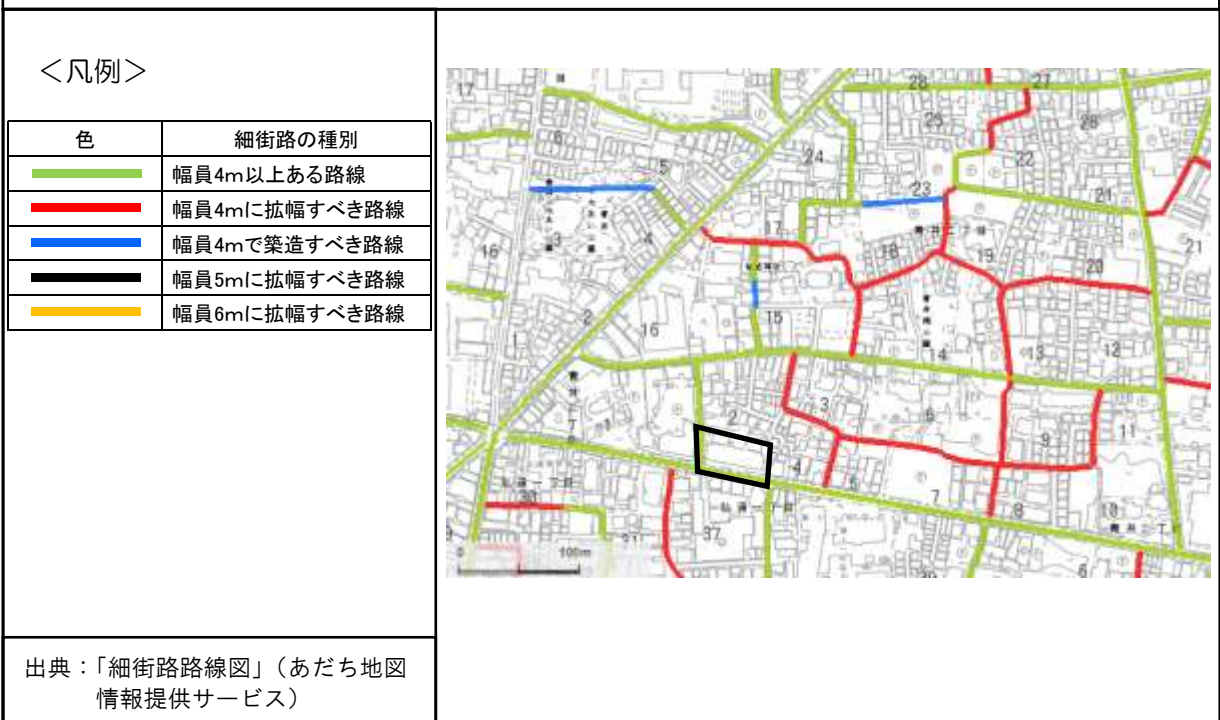
⑧ 都市計画道路の整備状況

都市計画道路は、補助 138 号線が五反野第 2 スカイハイツ自治会の南縁を東西に計画されています。



⑨ 細街路の状況

地区内には、幅員 4m に拡幅すべき細街路はありません。



(2) 地震の被害想定

① 首都直下地震の被害想定概要

南関東地域における首都直下地震（マグニチュード 7.3 規模）の発生確率は、今後 30 年以内に 70%といわれています。

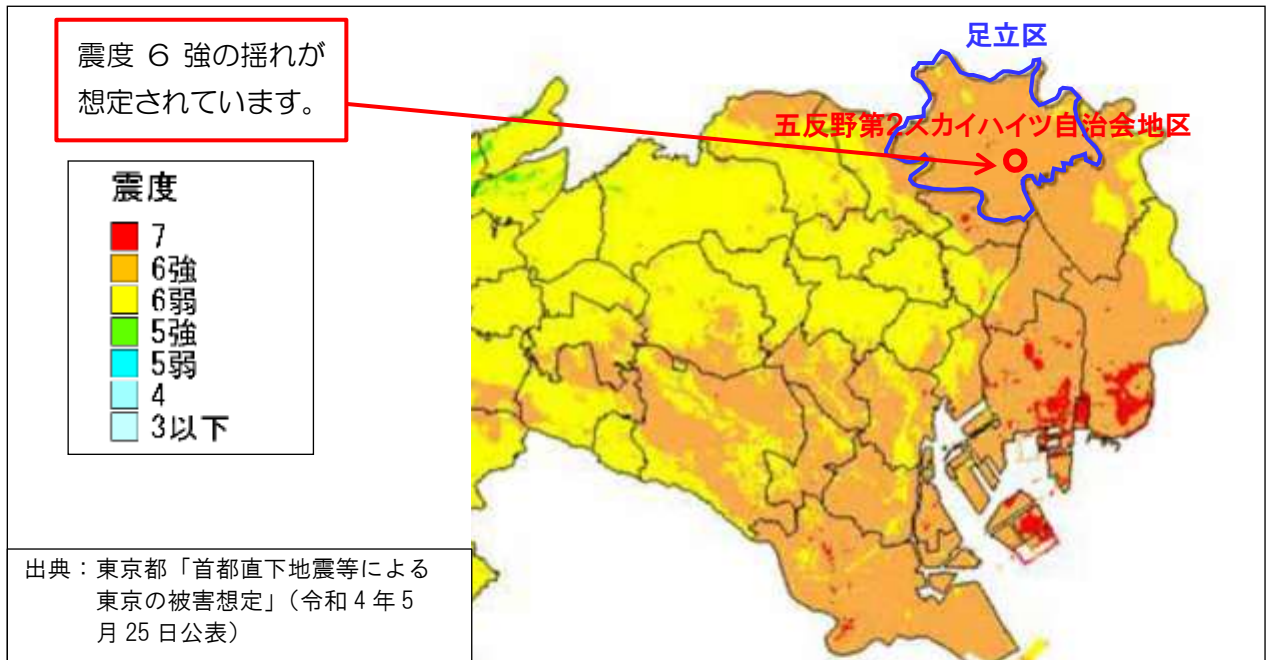
東京都は令和 4 年に首都直下地震の被害想定を見直しました。都内で最大規模の被害が想定される地震は「都心南部直下地震」に変わり、足立区は全壊棟数、死者数、負傷者数が 23 区で最大となりました。

■首都直下地震(都心南部直下地震)における足立区の被害想定 (M7.3、冬・夕方、風速 8m/秒)

被害区分	被害の規模	参考
死者	795 人	区の夜間人口の 0.11%
負傷者	8,507 人	〃 1.2%
建物全壊	11,952 棟	区的全建物棟数の 8.2%
建物焼失	13,546 棟	〃 9.3%
避難者	286,932 人	区の夜間人口の 41.3%
帰宅困難者	44,303 人	区の昼間人口の 7.3%

出典：東京都「首都直下地震等による東京の被害想定」（令和 4 年 5 月 25 日公表）

■首都直下地震(都心南部直下地震)の地震動分布



6強

【震度 6 強】

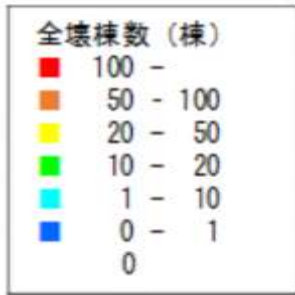
- はわないと動くことができない飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたりすることがある。

出典：気象庁HP
「震度の階級」

■建物全壊棟数

ほぼ全域で 10-25 棟の分布となっています。

<凡例>



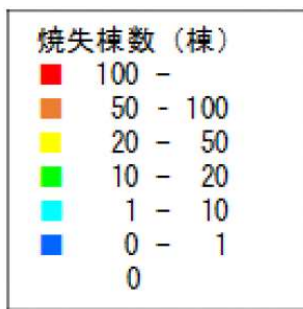
出典：首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）



■建物焼失棟数

多いところで 10-20 棟の分布もあります。

<凡例>



出典：首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）



■液状化危険度

危険度が高い表示もみられます。

<凡例>



出典：首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）

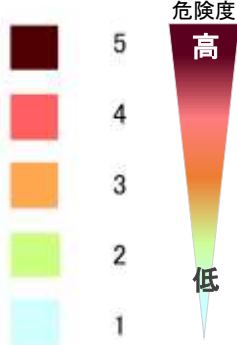


② 地域危険度*

東京都「地震に関する地域危険度測定調査（第9回、令和4年9月公表）」によると、この地域は建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度を考慮した総合危険度について危険度が4となっています。（都内5,192町丁目の中で総合危険度が、青井二丁目は133位）

<凡例>

危険度ランク



区市町境界

町丁目境界



出典：東京都「地震に関する地域危険度測定調査（第9回）」（令和4年9月）

※地域危険度は、都内の町丁目の地震に対する危険性を比較するため、特定の地震を想定するのではなく、全ての町丁目直下の地盤で同じ強さの揺れが生じた場合の危険性を測定しています。

(3) 水害の被害想定

当自治会において、河川氾濫による水害が想定される河川として、荒川、利根川、綾瀬川、芝川・新芝川があります。

① 荒川が氾濫した場合

■最大浸水深

3m以上 5m 未満の浸水が想定されています。早期立ち退き避難が必要な区域です。



■浸水継続時間

1 日以上 1 週間未満浸水が継続すると想定されています。



② 利根川が氾濫した場合

■最大浸水深

3m以上 5m未満の浸水区域と想定されています。早期立ち退き避難が必要な区域です



■浸水継続時間

3日以上1週間未満浸水が継続すると想定されています。



③ 綾瀬川が氾濫した場合

■ 最大浸水深

0.5m 未満の浸水が想定されています。



■ 浸水継続時間

浸水の継続（0.5m 以上の浸水深）は、想定されていません。



④ 芝川・新芝川が氾濫した場合

■最大浸水深

3m以上 5m未満の浸水区域と想定されています。



3 地震発生時の対応シナリオ

(1) 地震発生時の対応シナリオ

地震が発生してから、まず自分の身を守り、その後状況に応じて一時集合場所へ避難、さらに避難場所へ避難するなどの対応シナリオとともに、その際の行動の目安を P18、19 に整理しています。

(2) 地区防災マップ

防災に関する地域の資源、要注意箇所等を「地区防災マップ」として P20、21 に整理しています。

地震発生時の対応シナリオ

【一時集合場所】

マンション内駐車場

一時集合場所は、町会・自治会単位で一時的に集合して様子を見る場所です。



一時集合場所には次の役割があります。

- 1) 二段階避難において
 - ① 情報伝達や各種連絡の場
 - ② 近隣相互の助け合いや安否確認
 - ③ 警察・消防等の指示のもとで避難場所へ避難
- 2) 延焼火災の危険がない場合において
 - ① 地域内における初期消火や救出救護活動などの拠点

【避難場所】

第十一中学校

避難場所は、大地震時に発生する延焼火災やそのほかの危険から、身の安全を守るために必要な広さなどがある大規模な公園・広場等が指定されています。



※東京都が指定した避難場所は区立青井小中学校・都営青井三丁目アパート一帯と定められていますが、状況に応じて、近隣の第十一中学校に避難することが可能です。(足立区)

【第一次避難所】

第十一中学校

第一次避難所は、自宅に居住できなくなった被災者が一時的に生活する場所です。



一人ひとりの責任ある行動が求められるように、頃から準備練習しておくことが重要です。



が責
と日訓
こと

火災の発生に、
細心の注意を
はらいましょう

当地区は、家屋が密集し、一度火災が発生すると、町内一帯に延焼する危険性が高い地域です。火災には特に注意しましょう。



火が小さいうちに消火器やバケツ、毛布などで消火

‘震度5強’以上で分電盤ブレーカーを強制遮断する「感震ブレーカー」を設置しましょう。足立区では設置助成を行っています。



ブレーカーを落とす



ガスの元栓を閉める

東京ガスでは、震度5以上の場合にガスメータが自動的にガスを遮断しますが、元栓は閉めるようにしてください。

日頃から、一時
集合場所に至る
複数の避難経路
を確認しておく

当地区は、家屋が密集するとともに、狭い道路が多くなっています。ブロック塀や建物倒壊によって、通れなくなる場合があるため、複数の避難経路を確認し、平常時に歩いてみておくことが重要です。



落ち着いて行動
しましょう

火災は一気に燃え広がることはありません。落ち着いて行動するようにしましょう。避難時の服装などに注意しましょう。
・ヘルメット、防災ずきん、帽子
・動きやすい服装、軍手
・履きなれた底の暑い靴
・夜間の懐中電灯



避難する時に、
隣近所に声を
かけましょう

避難するときには、近所の高齢者、妊婦の方、小さな子どもがいるお宅などに、ひと声かけましょう。ひと声かけた情報（返事がなかった、不在だった、下敷きになった人がいる可能性など）は大切な情報になります。一時集合場所にみんなで情報を持ち寄りましょう。



みんなで助け
合って救出活動
を行います。

ケガや危険を伴うので、救出活動は複数で行うようにします。柱や梁に挟まれた人を発見したら、皆で声をかけて助けます。意識があるかどうか確認し、励ますことも重要です。また、救出用資機材の保管場所も確認しておきましょう。



【第二次避難所（福祉避難所）】
中央本町地域学習センター

第一次避難所での生活が難しい要配慮者の方々のため、必要に応じて介護サービスなどが確保される場所です。第二次避難所へは、必要に応じて足立区が移送します。



地区防災マップ

[五反野第2スカイハイツ

自治会]

拡大地図



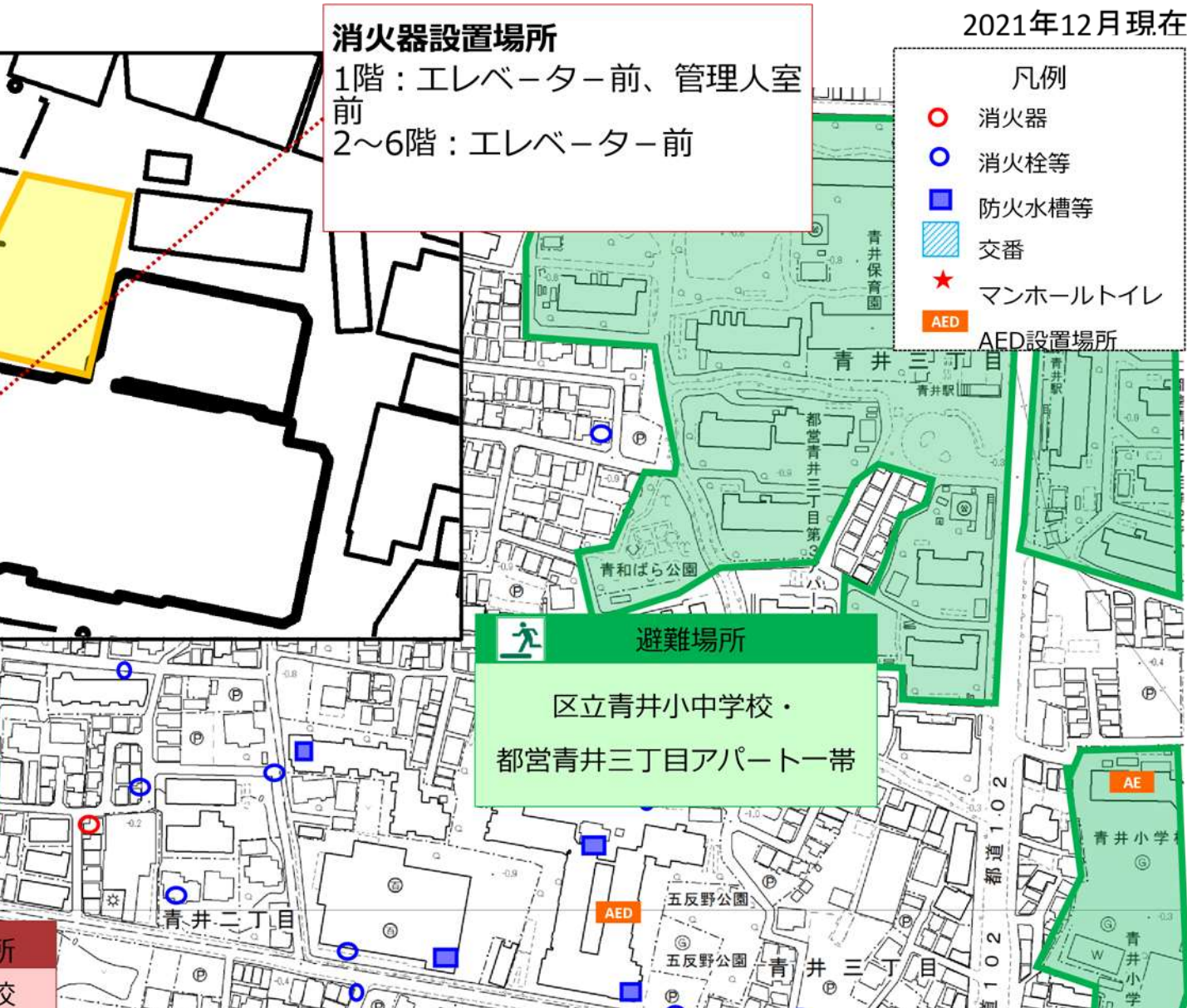
2021年12月現在

消火器設置場所

1階：エレベーター前、管理人室前
2～6階：エレベーター前

凡例

- 消火器
- 消火栓等
- 防火水槽等
- 交番
- ★ マンホールトイレ
- AED AED設置場所



避難場所
区立青井小中学校・都営青井三丁目アパート一帯

本マップの避難場所について

東京都が指定した避難場所は区立青井小中学校・都営青井三丁目アパート一帯と定められていますが、状況に応じて、近傍の第十一中学校に避難することが可

防火水槽

防火のために地中等に貯水してある水槽(写真左)で、ポンプで吸い上げて消火に利用する。地震時、消火栓の配管が壊れ、水道本管に直結する方法で、消防車両に消防

消火栓

外観

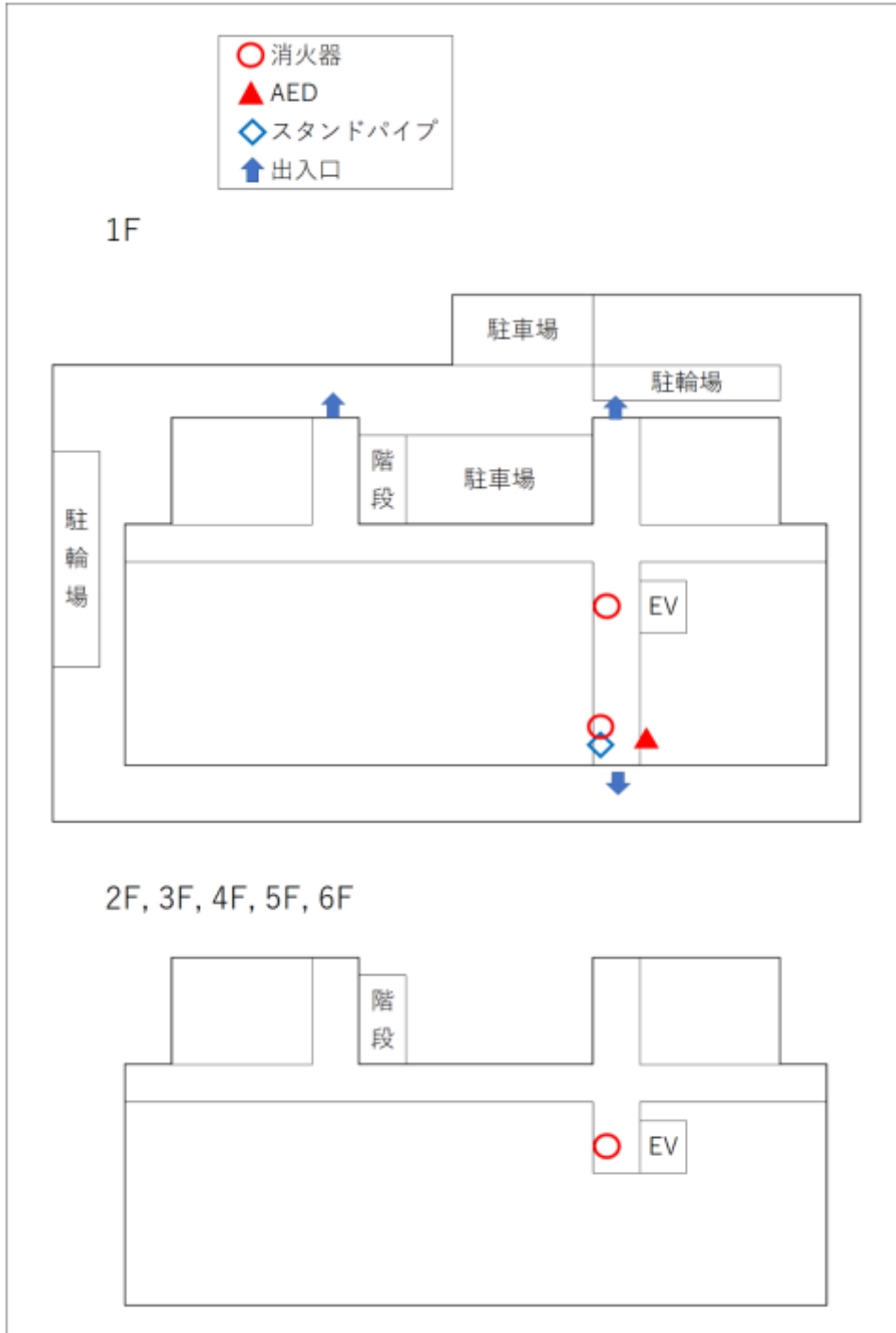
消火栓蓋を開けた状態

※この地図は、東京都縮尺1/2,500地形図(平成27年度DVD版)を使用したものである。

(3) 話し合いによる検討

① 防災まち歩きアパート内の防災設備

五反野第2スカイハイツ内の消火器の配置を確認しました（委託事業者にて実施）。



消火器・スタンドパイプ
(管理人室前)



AED (管理人室前)



消火器 (エレベーター前)



② 地区の課題と対応策

本計画の作成にあたっては、青井二丁目・弘道一丁目6自治会（五反野第2スカイハイツ自治会、弘道一丁目自治会、弘道一丁目第二自治会、弘道第三団地自治会、弘道一丁目第4自治会、弘道一丁目第5自治会）で合同のワークショップを行った結果、次のような地区の課題や意見が出され、その対応策を本計画に盛り込むこととしました。

■地区の課題と対応策

課題（意見含む）	対応策
<p>○一時集合場所、避難場所、避難所について</p> <ul style="list-style-type: none"> 一時集合場所は「地震」と「水害」は分けるべき 一時集合場所は駐車場を兼ねており、敷地と接する公園を含めても全員の集合場所としては手狭と思える。身の安全を確保できた世帯を順次避難場所の第十一中学校に誘導してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 一時集合場所は地震発生時の場合のみに使われる。水害が予想される場合は「水害が予想される場合の防災行動の概要」に示した分散避難を行うことになる。 【区】複数人集まった段階で、避難場所等に順次移動して構わない（極力、個人での行動とならないようにする）。 避難の方法については、自治会で引き続き議論を行い、地区防災計画に反映させる。
<p>○水害について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1階、2階が浸水したら最初に逃げる場所は。 	<ul style="list-style-type: none"> 水害時の上階への避難等について、自治会で議論を行い、地区防災計画に反映させる。 水の来ない階については在宅避難を検討する。
<p>○避難等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生直後や区の水害避難準備指示が出た場合など、居住者皆、適切な初動ができるか？ 防災委員として各人何をどうすべきか、行動できるか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 本計画の「地震発生時の対応シナリオ」、「水害時の対応シナリオ」、「共助のための事前対策リスト」、「初動活動の体制」を参考に、平時の準備を行う。 本計画の「災害対策本部の役割分担」を参考に、自治会内での災害時の役割分担について決めておく。

課題（意見含む）	対応策
<ul style="list-style-type: none"> • 担当者も被害にあっている事が想定できる。担当者の1次-2次-3次と何重にも対策が望ましい。 • ケガ人がでた、応急処置は？病院、近所の医院への連絡可能か？ • 緊急時避難のタイミングがわからない。 • エレベーターが使えない場合、高齢者は階段がきつくないか。 • そこに住めるかどうか、建物の被災状況の診断のタイミングは？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の役割分担を決定する際、各役割の代理等を設定する。 • 災害対策本部救護部による応急手当、病院への搬送等について、訓練や手順の取り決めを行う。 • 地震発生時は本計画の「地震発生時の対応シナリオ」に従い、火災の危険があると判断された場合に一時集合場所に集まる。水害時は本計画の「水害が予想される場合の対応シナリオ」に従い、「高齢者等避難」情報が出された段階で要配慮者は避難を開始し、「避難指示」情報が出された段階で全員避難を行う。 • 高齢者等の避難の支援、共助の方法について検討する。 <p>【区】区の応急危険度判定の体制としては、対象建物の重要度により順次実施することとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第一次応急危険度判定：小中学校等の避難所や区民事務所等の活動拠点など →発災後48時間まで ○第二次応急危険度判定：救急指定医療機関や第二次避難所など →第一次応急危険度判定終了後1日程度 ○第三次応急危険度判定：戸建住宅、共同住宅など →72時間以降（8日間程度）

課題（意見含む）	対応策
<p>○防災訓練について</p> <ul style="list-style-type: none"> • ここ 2～3 年の間に第十一中学校で避難所の総合訓練は行っているが、自治会単位で考えると、役割は決めているが訓練がおろそかになっている。改めて、自治会単位で消防署と連携したりして訓練をやっていかないといけないと思った。 • 年に 1 回でも避難訓練をして、実際に色々と学び、避難する時に気をつけることなど、流れを把握しておくべきと思う。 • 軽傷者・高齢者の避難支援、けが人の応急手当、救急手配等の想定訓練が必要。 • 地震時の初期消火ができるか、さらに火が回った時の避難誘導ができるか。 • 設置されているスタンドパイプの使い方、スタンドパイプの水源（消火栓）の位置はどこか。 • 非常食等の炊き出し訓練（アルファ米等）、発電機等の備え付けと起動訓練 	<ul style="list-style-type: none"> • 防災訓練は警察署や消防署と連携して行うことを自治会で検討する。 【区】訓練は、新型コロナの影響で激減している。緊急事態宣言が解除されたので、ぜひ自治会さんで訓練をとということであれば、災害対策課へ相談いただきたい。 • 消火訓練を定期的に計画・実施する。初期消火3原則、防災訓練を通して習熟することが重要。 ①周りに知らせる（非常ベル、119番通報） ②消火活動（消火器や水、毛布などで消火） ③避難、避難誘導（火が天井に達したら限界） 【区】10年前に区として全町会・自治会にスタンドパイプを配備したが、その時に説明しても忘れてしまっていると思う。宿題として検討させていただく。 • 消火栓の位置は本計画の防災マップを参照する。 • 定期的な訓練を計画し、実施する。
<p>○安否確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実際に地震が起こっても、住民同士で大丈夫かというような問いかけが少ないと感じている。以前に東京都の講師を呼んで説明会を聞いたことがあるが、自治会内で安否確認のステッカーを使うことも考えていこうと思っている。そういったことに対して補助も考えてもらえれば。 • 安否カードの作成と配布（マグネット等で、玄関スチールドア等に「無事です」「救助求む」などのカードを作成し、災害時に使う） 	<ul style="list-style-type: none"> • 安否確認表示としては、各家庭で黄色い旗を出すとか、無事というシールを貼り出すとか、いろいろ方法はあるので、検討する。 【区】ステッカーについては、そういったことができればよいという話はあるが、まだ具体的にやっている自治会は私たちの中にはない状況なので、もしそういったお考えであれば、これも災害対策課と相談して進められればと思う。災害弱者の安否確認は重要なところなので、自治会でできるところをやっていただけるとありがたい。

課題（意見含む）	対応策
<p>○資材、設備等について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 共有のコンロ、トイレ、車いす等は自治会備蓄。食料等の生活用品は、各家庭で備えることを原則とする • 購入した家具転倒防止グッズの使用や家具配置の見直しをすすめるには？ • エレベーターが使えないとき、ケガ人等の移動方法をどうするか？ • 長期化した場合のごみ・糞尿等の集積・管理はどうするか？ • マンション内防災設備・備蓄品数量の把握を行い、役員から各家庭への周知徹底（限られた数量を共有） • 自治会非常時備蓄品の日頃の備え、管理ができているか？ • 長期停電、断水になったらどう生活するか？ • 各家庭では自ら日常備蓄で一週間分を保留 • 建物が古いため、耐震診断をして耐震補強をして安心を得たい。 	<p>【区】車椅子をどうするのか等、食料以外のものについては、ご意見等あればいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 計画的に資機材・備蓄品の整備・購入等を行う（毎年度の区の補助金を活用して購入計画を検討）。また、配備状況を定期的に確認する。 • 生活ごみ（糞尿含む）、破損家財の一時仮置き場の設置場所、受入れ時期等について確認する。 • 本計画の「自助のための事前対策リスト」を参考に、平時の準備を行う。 • マンションの耐震補強については、自治会ではなく、マンション管理組合が計画・実施することになる。

課題（意見含む）	対応策
<p>○その他について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 近隣の町会、自治会と区災害対策課を結んだ災害時連絡網を作る。通信手段の確立（電話、PC・スマホ、無線、人力）、連絡窓口の明確化、自治会の防災組織の確立・強化が必要。 • 災害時の自治会の知る限りの課題を住民に知らせ、住民に意見をとってみては。そのうえで出来る事、出来ない事を踏まえて自治会の方向性を示してほしい。 • マンション居住者の交流イベントの実施 • 自治会防災区民組織役員全員の会合を開催して顔合わせを行い、非常時に備えたい。 • 最終の目標をみんなに披露して、それに向かって月々の実施計画を決めるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> • 区と協議しながら検討していく。 • 自治会内で検討する。 • 災害時に「共助」を行えるよう、年度当初に自治会活動の年間スケジュールを作成する際に、避難訓練や消火訓練等の防災訓練を計画する。

4 水害時の対応シナリオ

(1) 水害が予想される場合の防災行動の概要

台風等が発生し、水害が予想される場合の避難先の判断方法や避難所でのルールをP28、29に整理しています。

水害時の避難所の開設運営については、足立区の「水害時避難所運営手順書―第Ⅰ部事前学習編―」、「水害時避難所運営手順書―第Ⅱ部開設運営編―」(令和2年9月、足立区水防体制再構築本部)を参照。

(2) 水害が予想される場合の対応シナリオ

水害が予想される台風等が発生してから洪水に至るまでに発令される避難情報をP30、31に整理しています。

水害が予想される場合の防災行動の概要

三密
対策

分散避難

避難所には多くの方が来ます。三密を避けるため、自宅の浸水リスクを把握し、避難所以外へ「分散避難」ができるか事前に検討をお願いします。

STEP 1 足立区洪水ハザードマップで、自宅の浸水リスクを確認



河川(荒川、利根川、江戸川、中川、綾瀬川、芝川・新芝川)ごとに水害を想定。避難方法を考えるために、まずは自宅や周辺の浸水する危険性を把握しましょう。お持ちでない方には企画調整課、区民事務所で配布しています。くわしくはお問い合わせください。 [問い合わせ先](#) 企画調整課 企画調整担当 ☎3880-5349



▲区のホームページでも閲覧可

避難方法の判断ポイント!

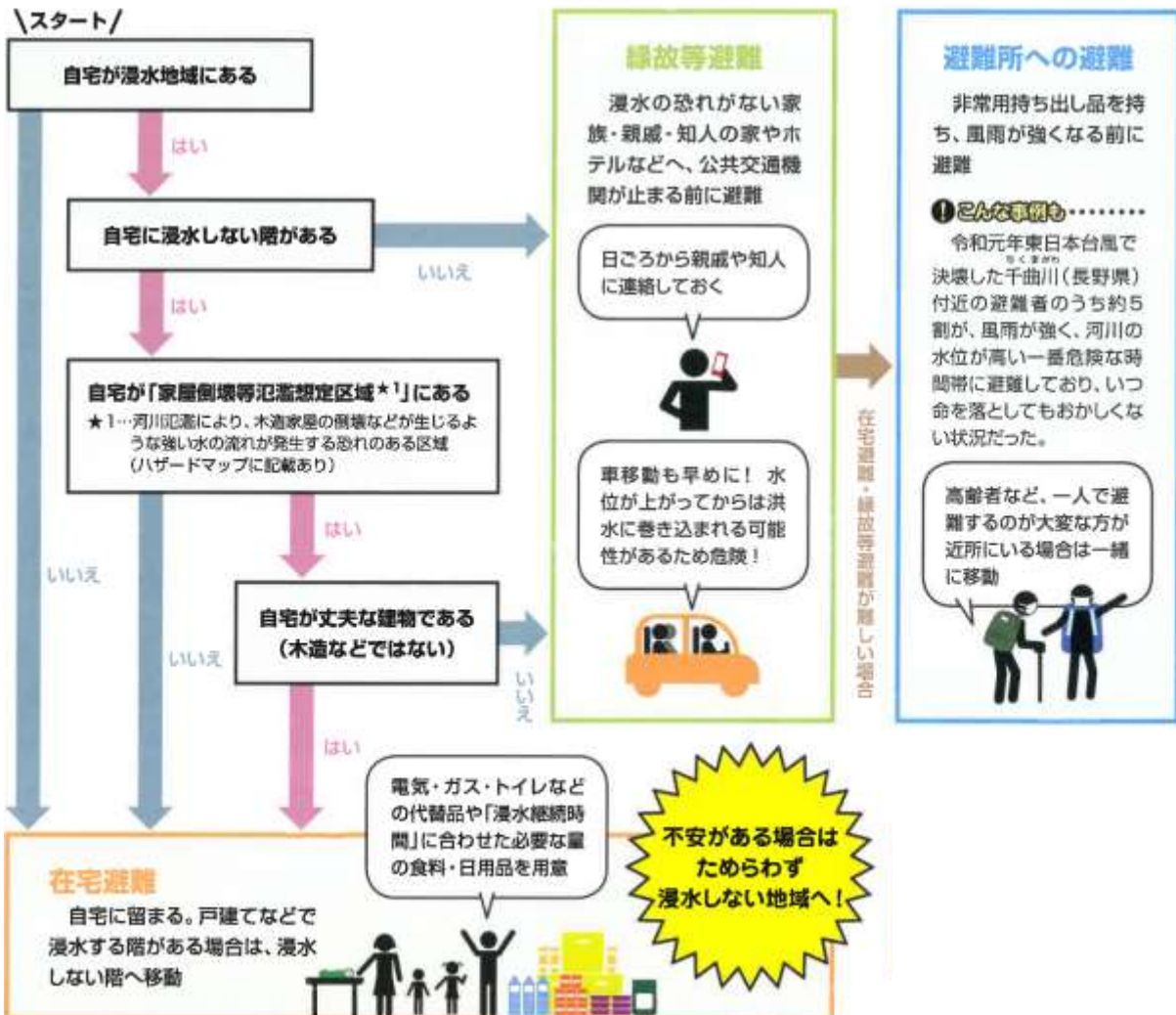
- 浸水深
- 浸水継続時間

河川ごとに確認して、ハザードマップの「避難行動メモ」に記入しておこう!

例えば、荒川氾濫時、千住地域の最大浸水深は、5m以上(3・4階まで浸水)の所もあれば、3~5m(2階まで浸水)の所も。自宅の場所や住んでいる階などで、避難方法を考えることが重要です。

STEP 2 自宅の浸水リスクを踏まえ、避難方法を検討

自宅の「浸水深」「浸水継続時間」を把握したら、下記のフローチャートを参考に避難方法を考えましょう。

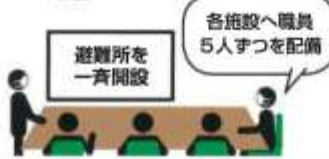


開設／受け付け

災害対策本部*2が避難所開設を決定し、区職員を配備

荒川氾濫が予想される場合、避難所（区立小・中学校など）を一斉開設します。そのほかの河川の場合は、気象情報などをもとに判断します。

★2…台風・豪雨などの発生により、区内に被害が生じる恐れがある場合に区が設置



受け付け*3で避難者カードに住所・氏名などを記入

そのほか、下記のことを行います。

- ・検温の実施 **感染症対策**
- ・運営ボランティアを募集 など
- ★3…家族で別々に避難して受け付けをした場合は同じ居室にならないことがあります。



ペット動物との同行避難

受け付け時にペット登録カードを記入し、ペット動物用居室へ。飼い主とは原則居室が異なります。

ケージ、リード、エサ、シートなどは必ず持参してください。



避難中

避難所の居室は浸水しない最上階から利用

浸水する階にある体育館は、受け付けなどで一時的に使用する場合を除き、使用しません。



37.5℃以上の方は居室を分ける **感染症対策**

受け付け時に検温し、37.5℃以上の熱がある方の居室分けを行います。



避難当日の食料・水の提供は行いません

区の備蓄品は河川が氾濫し、避難の長期化が見込まれる場合に使用します。2食分の食料（火やお湯を使わないもの*4）や水、タオルなどは必ずご持参ください。

★4…乳幼児用のミルクなどを除く



物資受け取りは避難者自身で

毛布などの物資は、避難者が受け取りに来てください。



最新の情報を確認

校内放送や掲示板などで災害対策本部からの情報を周知します。



閉鎖

雨が止んでも危険は去らない

令和元年東日本台風では、台風通過後に河川の水位が上昇。避難情報の解除や避難所の閉鎖については、災害対策本部が判断します。それまでは、避難所に留まってください。

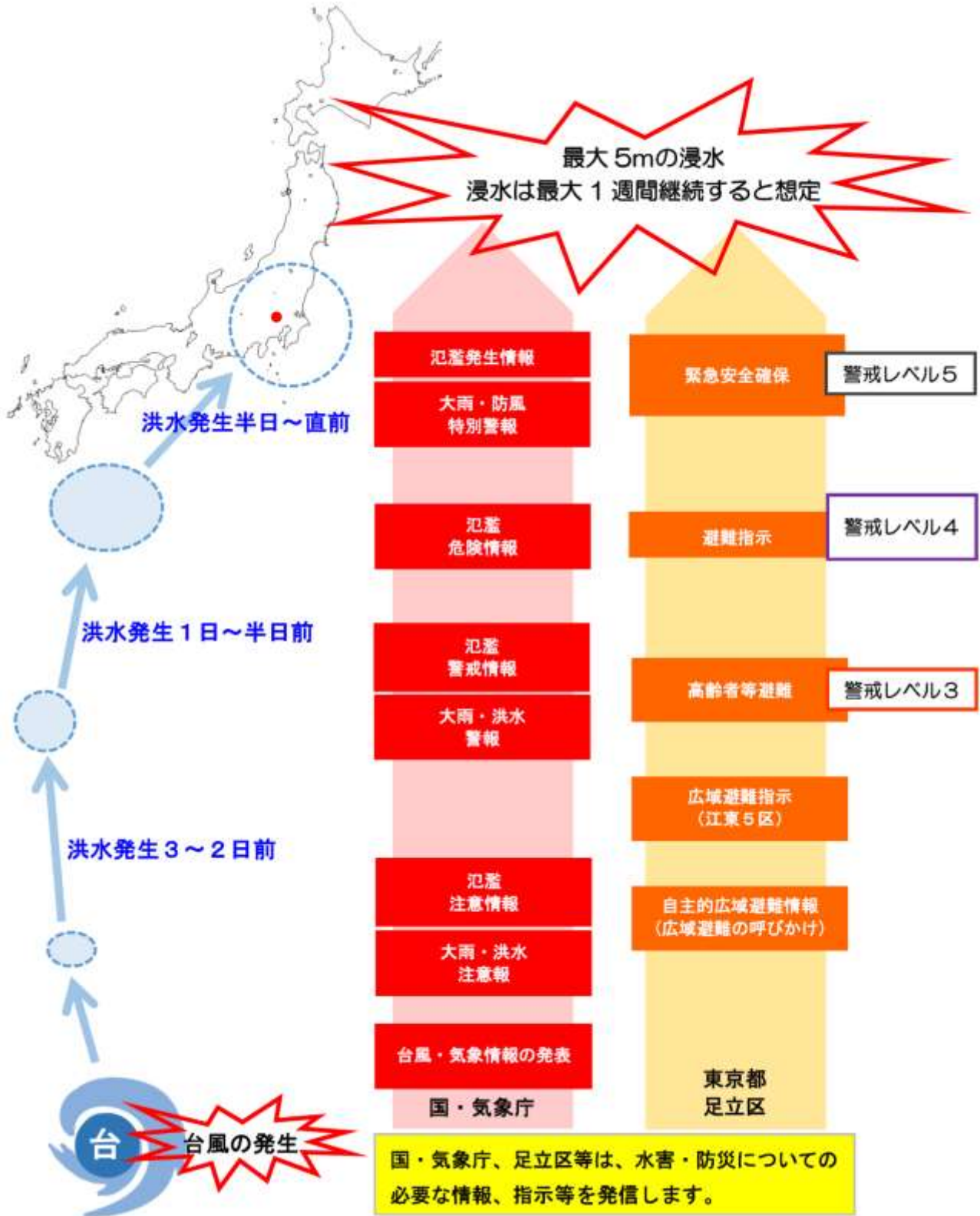


身の回りを清掃し、ごみは各自で持ち帰り

使用した部屋の清掃や毛布などの返却にご協力をお願いします。また、ごみは原則お持ち帰りください。



水害が予想される場合の対応シナリオ



■ 水位変化・危険レベルと足立区の体制



■ 避難情報について

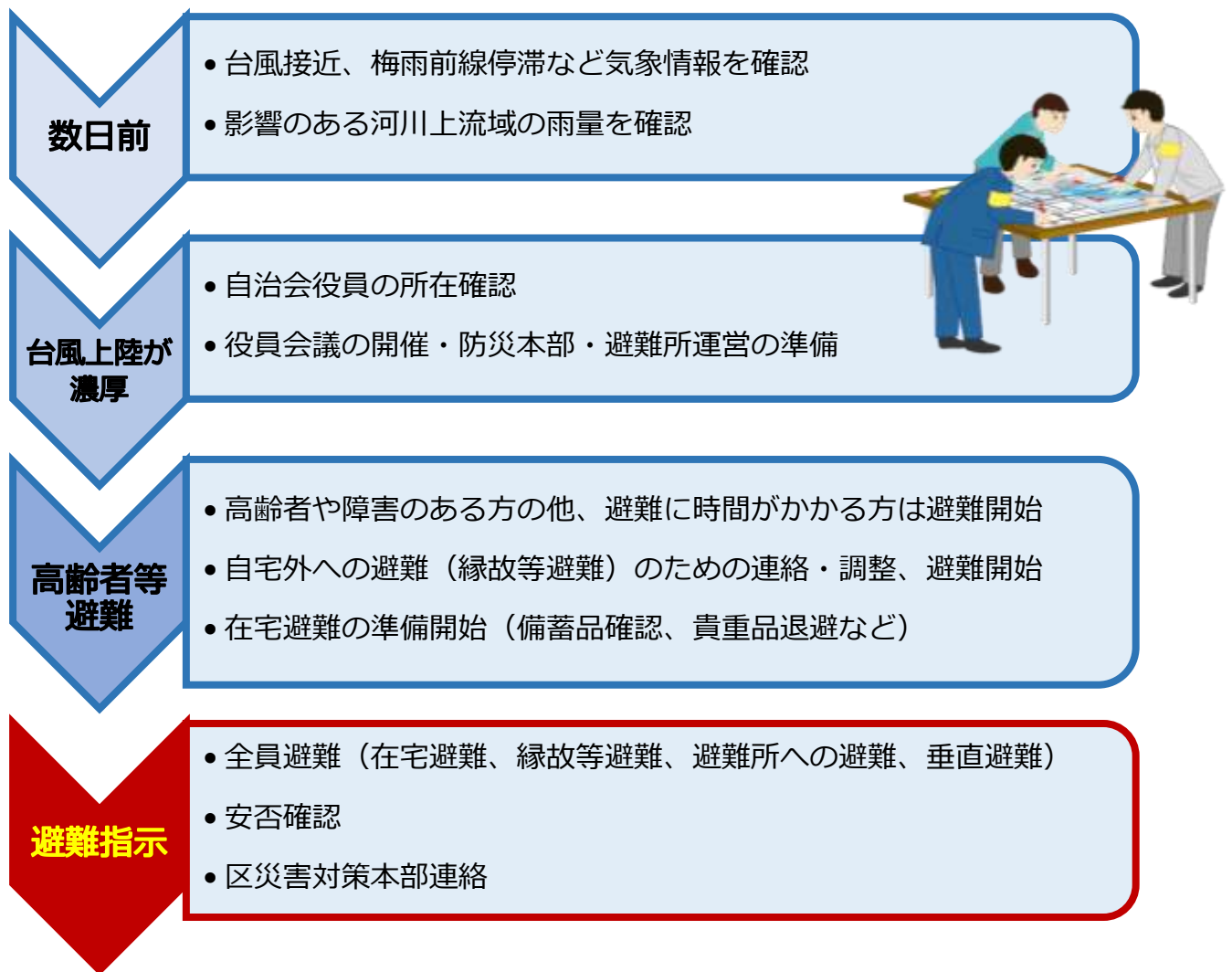


(3) コミュニティタイムライン

コミュニティタイムラインとは、風水害の予報や河川水位情報等をもとに避難のタイミングや取るべき防災行動について地区コミュニティで話し合い、「いつ・誰が・何をするか」を定めた行動計画のことです。

「足立区洪水ハザードマップ」に掲載された情報等を参考に、荒川に氾濫のおそれが生じた場合、地域や住宅の特性などに基づき、「どのような備えや行動を」「どのタイミングでとるべきか」の計画を検討します。

コミュニティタイムラインの例を次頁に示します。



自治会等でのコミュニティタイムラインの例

備えまでの時間	気象庁などからの情報	区からの情報	自治会での備え (情報収集)	各家庭の備え (例)
3日～ 5日前	・台風予報 (進路・勢力等)	・注意の呼びかけ	・今後の台風の進路情報を調べる ・役員会開催の決定 ・避難準備の呼びかけ (備蓄品・貴重品・連絡手段など)	・今後の台風を調べ始める ・必要な常備薬を確保する ・家周りの安全を確保する ・備蓄品や非常持ち出し品を準備する
2日前	・大雨注意報 ・洪水注意報 ・台風の進路	・自主避難など注意の呼びかけ ・避難所開設準備 ・土のう貸出し	・避難準備の呼びかけ (縁故等避難、避難所避難の準備) ・避難の呼びかけ (早めの避難)	・携帯電話の予備電源の確保 ・避難方法や移動手手段等の決定
1日前	・大雨警報 ・洪水警報 (荒)洪水予報 (はん濫注意情報発表)	・要配慮者利用施設への洪水予報 (はん濫注意情報)伝達 ・高齢者等避難を発令	・携帯メールで高齢者等避難情報の受信 ・身の安全確保 ・避難所運営に協力	・携帯電話の充電 ・携帯メールで高齢者等避難情報の受信 ・身の安全確保
半日前	・場合によって大雨特別警報 (荒)洪水予報 (はん濫警戒情報発表) <避難判断水位>	・避難指示	・身の安全確保(垂直避難など) ・安否確認	・携帯メールで避難指示の受信 ・身の安全確保(垂直避難など) ・避難完了
5時間前	(荒)洪水予報 (はん濫危険情報発表) <はん濫危険水位>		・安否確認	・身の安全確保 (垂直避難など)
3時間前			・安否確認	・身の安全確保 (垂直避難など)
0時間前	氾濫発生情報	緊急安全確保	・安否確認	・直ちに安全確保 (垂直避難など)

(荒)は荒川下流河川事務所からの情報

5 五反野第2スカイハイツ自治会における平時の備え

(1) 事前対策リスト

災害時の備えを事前にチェックできるように、自助と共助に分けて事前対策をチェックリストにしました。

■自助のための事前対策リスト

<被害を抑えるために事前にしておくこと(家の中)>

家具の固定・配置など	<input type="checkbox"/> 家具が転倒しないように固定する
	<input type="checkbox"/> 寝室には家具を置かないか、寝床に向かって転倒しないようにする
	<input type="checkbox"/> 家具の扉が揺れて開かないようにする（耐震ラッチなど）
	<input type="checkbox"/> 家具のガラス扉などは飛散防止フィルムを貼る
	<input type="checkbox"/> 玄関などの出入り口までは物を置かずに避難できるようにする
	<input type="checkbox"/> ベランダの避難用の隔壁、避難ハッチ周りに物を置かない
	<input type="checkbox"/> フロアの汲み置き（災害時、生活用水として利用）
共有情報	<input type="checkbox"/> 消火器の設置場所と使い方の熟知
	<input type="checkbox"/> 災害伝言ダイヤルなど家族との連絡方法を確認

<備蓄>

必ず備蓄するもの	<input type="checkbox"/> 飲料水（1人1日3リットルを最低3日分、できれば7日分を推奨）	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ（便袋）
	<input type="checkbox"/> 食糧（レトルト、缶詰、インスタント食品、栄養補助食品、チョコレート等の菓子、最低3日分、できれば7日分を推奨）	
避難・救護に役立つもの	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> ヘルメット、防災頭巾
	<input type="checkbox"/> 応急医薬品（絆創膏、消毒薬、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬等）	<input type="checkbox"/> ホイッスル（閉じ込め時に音を発するため）
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯、ランタン、マッチ、ライター	<input type="checkbox"/> 防災マップ
	<input type="checkbox"/> 工具類	<input type="checkbox"/> マスク
避難生活で役立つもの	<input type="checkbox"/> リュック（物資の持ち運び用）	<input type="checkbox"/> ドライシャンプー
	<input type="checkbox"/> ラジオ	<input type="checkbox"/> 除菌シート
	<input type="checkbox"/> 水用携行タンク（水の配給時に必要）	<input type="checkbox"/> 携帯用充電器（ソーラー又は手動）
	<input type="checkbox"/> ラップ（食器にかぶせて使用）	<input type="checkbox"/> ビニールシート（敷物、雨よけ）
	<input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、割り箸	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ
	<input type="checkbox"/> ガムテープ	<input type="checkbox"/> 電池
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー、ティッシュ	<input type="checkbox"/> 虫よけ用品
	<input type="checkbox"/> ガスカセットコンロ、ガスボンベ	<input type="checkbox"/> 新聞紙（防寒、燃料）

<避難など自宅を離れる時に持ち出した方がよい貴重品>

非常用持出し	<input type="checkbox"/> 現金、クレジットカード	<input type="checkbox"/> 預金通帳、キャッシュカード
	<input type="checkbox"/> 携帯電話	<input type="checkbox"/> 免許証、健康保険証、お薬手帳
	<input type="checkbox"/> マイナンバーカード、年金手帳	

避難所では、支給できる物資には限りがあります。特に、乳幼児や障がい者、持病やアレルギーをお持ちの方、ペットを飼われている方など、それぞれに合った備蓄・準備が必要になります。

■共助のための事前対策リスト

地域の共通課題である「避難対策」に絞って、基本的な事項をチェックリストにしました。

避難対策に必要な項目	チェックリスト	備考
一時集合場所へ向かう途中の初期消火	<input type="checkbox"/> 町内で消火器やバケツの備えはあるか <input type="checkbox"/> 備えた場所がわかるか	<ul style="list-style-type: none"> ・出火したばかりの火災があったとき ・隣近所で消火器での消火、バケツリレー
一時集合場所へ集合	<input type="checkbox"/> 一時集合場所とそこに集まるエリアを決めておく <input type="checkbox"/> 一時集合場所が使えない場合の代替場所はどこか	<ul style="list-style-type: none"> ・一時集合場所ごとに班を形成するなど、身近な避難体制をつくっておく
集合人員の確認	<input type="checkbox"/> 一時集合場所ごとに集合者のリスト（可能な範囲で）等を作成しておく	<ul style="list-style-type: none"> ・集合人員をリストで確認
避難場所と避難所	<input type="checkbox"/> 避難場所を確認しておく <input type="checkbox"/> 避難所を確認しておく	<ul style="list-style-type: none"> ・火災延焼時には避難場所に避難 ・家が無事ならば在宅避難 ・家に被害がある場合は避難所へ
避難経路	<input type="checkbox"/> 避難場所と避難所に行く経路を決めておく	<ul style="list-style-type: none"> ・経路は通れなくなった場合を考慮して複数設定
避難に向けた情報収集	<input type="checkbox"/> 避難経路や避難先を決めるために必要な情報の収集方法を決めておく <input type="checkbox"/> テレビ（ワンセグ）や携帯ラジオなどで災害情報が得られるか	<ul style="list-style-type: none"> ・一目で町内の被害状況を把握できるマンションに登るなど
避難先と避難経路を選択して避難開始	<input type="checkbox"/> 避難先までの経路を歩いて危険箇所をチェックしておく	<ul style="list-style-type: none"> ・班長など、先導者が誘導
声をかけながら避難	<input type="checkbox"/> 声かけに便利なものを用意しておく <input type="checkbox"/> 担当者を決めて持ち出せるようにしておく	<ul style="list-style-type: none"> ・拡声器、メガホン、要配慮者の名簿やマップなど
要配慮者への手助け・支援の要請	<input type="checkbox"/> 要配慮者の手助け方法や支援要請先を調べておく	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、消防団などへ連絡 ・民生・児童委員との連携
救出・救助の支援	<input type="checkbox"/> 防災倉庫等に、救出搬送資機材（バール、ジャッキ、のこぎり、担架、車いす、リヤカーなど）が調達できているか	<ul style="list-style-type: none"> ・支援は可能な範囲で ・区民レスキュー隊の結成についても検討していく
避難先で自治会単位で安否の確認	<input type="checkbox"/> 避難先では、自治会単位で集合し、安否確認することを決めておく	<ul style="list-style-type: none"> ・避難先で班長が集まって自治会全体の安否を確認 ・避難していない在宅避難者もできるだけ把握
行方不明者の救助・救援の要請	<input type="checkbox"/> 救助・救援の要請先を調べておく	<ul style="list-style-type: none"> ・区、消防団、警察などへ連絡
応急対応一段落後※、自治会の災害対策本部を設置	<input type="checkbox"/> 自治会の災害対策本部の組織と役割分担を決めておく	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救助、緊急避難等の応急対応が優先
避難所の運営	<input type="checkbox"/> 避難所運営体制を決めておく	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会を超える場合もあり
帰宅困難者への対応	<input type="checkbox"/> 帰宅困難者の一時滞在施設を把握しておく	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅困難者には一時滞在施設の開設場所を伝える

※ 自治会の災害対策本部の設置は応急対応一段落後を想定しましたが、災害の状況に応じて臨機応変に対処してください。

(2) 体制づくり

① 五反野第2スカイハイツ自治会の災害対策本部の役割分担

役割分担を明確にし、訓練を通じて地域の防災力を向上

【今後の取組み】

<ul style="list-style-type: none"> ・当初は、五反野第2スカイハイツ自治会の実情（マンパワー等）に応じた最低限の編成とし、段階的に充実することも検討 ・役割分担にあたっては、既に決まっている避難所運営の役割との整合性も考慮 ・一定の震度以上で、災害対策本部メンバーは、一時集合場所に参集するなどルーラル化の検討

【災害時の役割分担のイメージ例：避難所運営の役割との関連性も考慮したケース】

最低限の体制	目指す体制	平常時の役割	災害時の役割	避難所運営の体制
本部長 (会長)	本部長	・各班の統括		本部長・ 副本部長
副本部長 (副会長)	副本部長	・本部長の補佐、代理		各部部长等
総務部	総務部	・防災資機材の備蓄、保守管理	・庶務全般 ・連絡調整 ・町内の秩序維持、防疫活動の協力	庶務部
情報部	情報部	・防災知識の普及、高揚	・災害防止広報実施 ・災害情報の収集 ・避難情報等の伝達	
防火部	消火部	・初期消火訓練 ・出火防止の徹底	・初期消火活動 ・出火防止、出火警戒	施設管理部
	安全・点検部	・巡回点検 ・危険箇所調査	・巡回点検 ・危険箇所調査	
避難誘導部	避難誘導部	・避難場所、第一次避難所、避難経路の確認 ・避難訓練	・避難誘導活動	
	要配慮者部	・要配慮者の把握	・要配慮者の安否確認、搬送の協力	
救護部	救出・救護部	・応急手当知識普及 ・応急救護訓練	・負傷者等の救出、救護活動	救護衛生部
給食部	給食部	・備蓄物資の調達・点検 ・個人備蓄積の啓発活動 ・炊き出し訓練	・救援物資の確保、搬送、配分 ・炊き出し、給食、給水活動	物資部

② 初動活動の体制

地震発生時には、五反野第2スカイハイツ自治会として下記の活動を想定

【地震発生時の対応】※想定事項

区分	自治会として想定される事項
活動拠点の設置	<ul style="list-style-type: none"> 一定の震度以上（具体的な震度は今後検討）の地震が発生した場合、自治会役員は、家族及び自宅の安全を確認したのち一時集合場所等に参集 地区（班）を単位とした初動活動の体制を検討
被害状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> 役員は一時集合場所等に参集するまでの経路周辺の火災発生、道路閉塞、家屋倒壊等の被害状況を目視で確認し、参集後に各自報告 ラジオ、テレビ、消防署・区役所からの連絡等の正しい情報を集約し、自治会員に情報を提供
安否確認	<ul style="list-style-type: none"> 一定の震度以上（具体的な震度は今後検討）の地震が発生した場合に、自治会員が無事を知らせる仕組みづくりを検討（「無事ステッカー」を表扉に貼る等）
初期消火活動	<ul style="list-style-type: none"> 火災発生時には、消火器などの資機材を活用した消火活動を実施 初期消火の限界を超えた場合（建物火災では、天井に炎が回っていない状態が初期消火の限界）は、直ちに避難に切り替え
救出・救護活動 ※五反野第2スカイハイツ自治会としてできることを今後検討	<ul style="list-style-type: none"> 住民等からの被害状況、安否情報に基づき、必要に応じて、地域の助け合いによる救出活動を展開 救出した負傷者を安全な場所に移動し、応急手当等を実施
避難誘導活動	<ul style="list-style-type: none"> 延焼火災の発生を確認した場合は、避難場所（第十一中学校）への避難を開始 延焼火災の発生方向を考慮し、適切な避難路を選択 高齢者等の避難を支援 避難場所の集合場所は事前に選定
備蓄品の提供	<ul style="list-style-type: none"> 自治会備蓄品（水、カロリーメイト、卓上コンロ、トイレ、車いす）の提供
行政等関係機関との連絡・要請	<ul style="list-style-type: none"> 被害状況や危険箇所などを消防署、警察署、区役所に連絡

【今後の取組み】

- 新たな一時集合場所や、近隣住民が一時的に集合できる場所の検討
- 役員以外の自治会員が携われるような自治会内の体制、役割分担、情報伝達の方法を検討
- 高齢者等の避難の支援、共助の方法について検討

③ 資機材・備蓄品等の備え

- ・計画的な資機材・備蓄品の整備・購入等を検討する（例えば、毎年度の区の補助金を活用して、備蓄倉庫・発電機・電動階段昇降機等の購入計画等を検討）
- ・自治会内の消火器の配備状況を確認し、消火器が少ないエリアへの増設を検討する
- ・救出救助用資機材の配備について検討する
- ・今後の資機材購入検討例

①ケガ人搬出用の担架・階段避難車など ②物資搬出用リヤカーなど ③スマホ、照明用の小規模の簡易電源、発電機、ソーラーパネル、蓄電器など ④その他、テント、炊き出し設備、救急セット

【現在の資機材の状況】

資器材など	配置場所
スタンドパイプ	管理人室前
消火器	管理人室前、各階エレベーター前

④ 防災訓練

- ・年度当初に自治会活動の年間スケジュールを作成する際に、防災訓練を計画し、自治会員に周知
- ・現在、定期的実施している訓練を継続するとともに、より実践的な内容とすることを検討
- ・近隣の事業所等との連携強化を図るため、合同での防災訓練を検討
- ・年中行事となっているイベントの企画・準備の会合を行う際は、防災について学ぶ機会や防災サポーターの募集活動などを組み込むことを検討
- ・消火など防災技術の向上を図るため、消防団と連携した訓練等の実施を検討
- ・消火器を使った定期的な訓練の実施を検討

【今までの活動】

訓練	内容
避難所運営訓練（第十一中学校）	消火体験あるいは見学

⑤ 防災についての定期的な話し合い

自治会の通常の集会等を利用して定期的に防災についての会議等を実施

【今後の取り組み】

- ・自治会の年間スケジュールで、防災について話し合う機会を明記
- ・防災アンケート調査の実施（家庭内備蓄、家具転倒防止対策、避難時持ち出し品の準備等）
- ・高齢者等の避難の支援、共助の方法について検討
- ・備蓄品の拡充（備蓄倉庫・発電機・電動階段昇降機等）
- ・自治会での話し合いを進める上では、防災に関する情報（行政の防災関連制度含む）も重要なことから、必要に応じ、区に出前講座等の職員派遣を依頼

※ 様式・資料編

資料 1 様式集

参考様式 1 緊急時連絡先一覧表

区分	連絡先	連絡先担当部署	TEL
緊急連絡先	区役所		
	消防署		
	警察署		
	電気		
	ガス		
	上水道		
	下水道		
	電話局		
避難関係	第一次避難所 (第十一中学校)		

参考様式2 備蓄品リスト

区分	品名	規格	数量	保管場所	点検日
食糧					
水					
日用品					
消火用具					
救出救助 用資機材					
その他					

参考様式3 自治会年間スケジュール

- 年間スケジュールは任意様式とする。
- 従来、自治会で運用してきた年間スケジュールに、防災関係の予定（防災訓練等）を盛り込むものとする。

年間スケジュール（年度）（例）

年	月	自治会スケジュール	防災関係スケジュール
年	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
年	1月		
	2月		
	3月		

参考様式 4 防災区民組織名簿

防災区民組織役員名簿

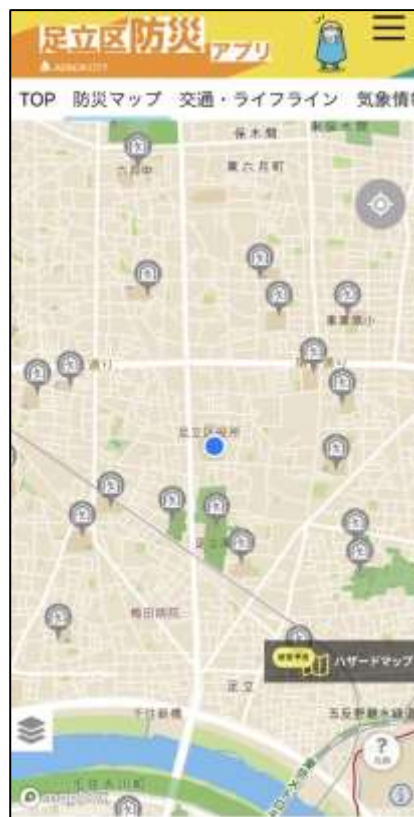
役 職		氏 名	住 所	電 話
本部長（会長）				
副本部長 （副会長）				
総務部	部長			
	副部長			
情報部	部長			
	副部長			
防火部	部長			
	副部長			
救護部	部長			
	副部長			
避 難 誘導部	部長			
	副部長			
給食部	部長			
	副部長			

資料2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災アプリ」

足立区の防災アプリが令和4年4月に新しくなりました！従来の機能に加え、災害時には避難所の状況や、地域の被害状況をマップ上に見やすくリアルタイムで表示できるようになりました。公共交通機関情報や電気・ガス・水道などのライフラインの情報も確認できるほか、警報や避難指示をプッシュ通知でお知らせします。



防災アプリトップページ



防災マップ

(避難所の開設状況などが一目でわかる)

資料3 A-メール（足立区メール配信サービス）

区政情報や子どもの安心情報など、足立区についての様々な情報を、あらかじめ登録された携帯電話やパソコンのメールアドレス宛にお送りします。

足立区ホームページや下記のメールアドレスに空メール（本文に何も書かずに送るメール）を送信し、送られてきたメールに表示された URL にアクセスし、登録することができます。

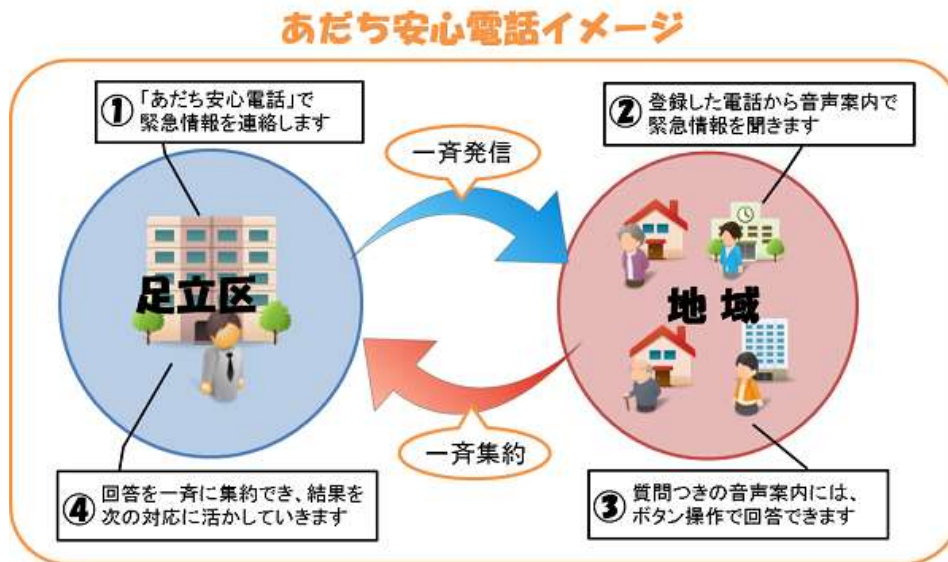
adachi@sg-m.jp



- ・「災害情報・気象警報」「大雨・洪水注意報」「雷注意報」で配信される警報・注意報は、気象庁の発表と連動させ、自動的に配信をしています。

資料4 あだち安心電話

河川の水位状況や避難所開設情報等を確実にお届けするため、電話を活用した情報伝達システム「あだち安心電話」を導入し、希望するすべての区民の方（事業者を含む）の登録を随時受け付けています。いざという時の準備として、ぜひご登録ください。



下記の方法で申込むことができます。

- ① ホームページ「登録申込みフォーム」でご登録



- ② 報道広報課（足立区役所本庁舎南館9階）または、各区民事務所（中央本町区民事務所を除く）に直接「登録申込書」をご提出ください。

- ③ 「登録申込書」を報道広報課にご郵送ください。

【申込書郵送先】

足立区報道広報課 デジタル情報・広告係
〒120-8510 足立区中央本町 1-17-1
TEL：03-3880-5514

資料5 防災無線のテレホン案内

足立区では、災害時等に速やかに情報を伝達する手段として、防災行政無線屋外拡声装置（スピーカー）を設置しています。「放送が聞き取れなかった」「もう一度聞きたい」ときに、放送内容を電話で確認することができるサービスが、「防災無線テレホン案内」です。

ご利用方法

(1) 下記の電話番号にお電話ください。

足立区防災無線テレホン案内：050-5527-2305

(2) 24 時間以内に放送された最新の放送が繰り返し流れます。

(3) 通話料は有料となります。

※ 防災無線の放送内容は、下記ホームページからも確認できます。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/cgi-bin/bousai/list.cgi>



資料6 足立区 LINE 公式アカウント

足立区では、令和2年9月14日に「足立区 LINE 公式アカウント」を開設しました。

「足立区 LINE 公式アカウント」では、災害に関する情報（避難指示や避難所開設情報等）や緊急情報などのお知らせをリアルタイムに発信します。情報を受け取るには、SNS アプリ「LINE（ライン）」での友だち登録（利用者登録）が必要です。いざという時に備えて、ぜひご登録ください。

ご利用方法

(1) ご利用には「LINE（ライン）」での「友だち登録」が必要です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/hodo/line/index.html>

(2) 主な配信情報

- ・ 台風や地震などの災害に関する情報（避難指示や避難所開設情報等）
- ・ 緊急でお知らせしたい重要な情報
- ・ 「あだち広報」発行情報（月2回）
等々

順次、便利にお使いいただける新たなサービスを検討していきます。

(3) 災害情報など緊急でお知らせしたい重要な情報は、LINE、A-メールどちらにも配信します。



資料7 五反野第2スカイハイツ防災知識1 (2020年保存版)

五反野第2スカイハイツ居住者各位

2020.11.3

五反野第2スカイハイツ防災知識1 (保存版)



避難すべき場所は、どこ？ (足立広報抜粋)

あらかじめ避難場所、避難方法を決めておく。コロナ禍 (三密回避) のもと、今後は、分散避難 (避難所、在宅、親類宅あるいは他所の広域避難) が前提となる。

在宅避難は、言うまでもなく、居住者の助け合いが必要です。周りは洪水、水が引くまでマンションは孤立化。ケガ人対応、1階の避難協力、外部避難者対応、物資・救援依頼方法、生活廃棄物処理などなど、盛りだくさん。

一つひとつ考え、備えましょう。

1. 断水と停電

(1) 水害時、当マンション駐輪場脇の水道増圧ポンプは、30cm程度で故障し、2階以上は断水になる可能性がある。さらに、水深50cm以上を超えると、東電配電建屋内の変圧器が故障し、停電になる可能性がある。(ポンプメーカー・東電より)

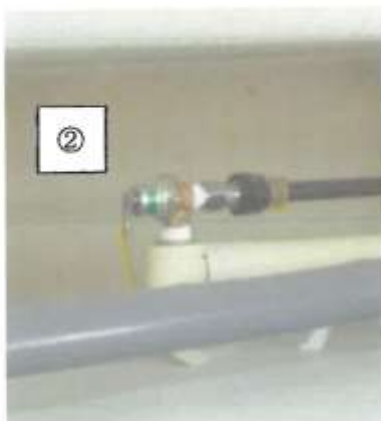


(2) 突如停電、エレベーターに乗っていたら…!

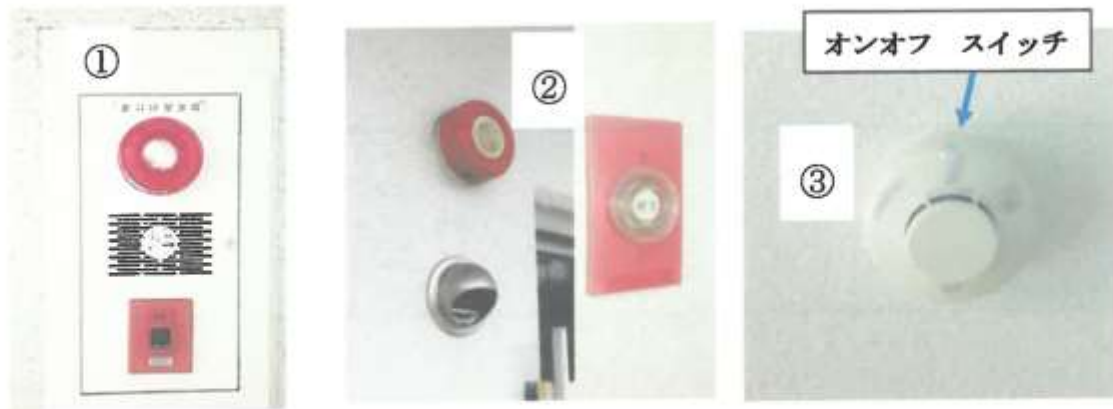
①緊急停止。②非常照明点灯。③ゆっくりと近くの階に止まる。④扉が開き、しばらくしたら閉まる。エレベーター内の「開」ボタンは有効だが、外の「開」ボタン操作は出来ない。⑤電気が復旧したら、自動的に使用可能となる。(動作確認要? 東芝エレベーターより)

(3) 温水器内の温水利用は?

停電時は温水器も蛇口からの利用はできないが、非常時は温水器排水口から取水はできる。但し、飲み水にむかない。手順①電源スイッチは切る。②写真、上部のレバーを開く、③下のバルブを徐々に開いて取水。(温水器メーカーより)



2. 非常灯・警報機



(1) 非常用内階段・通路に設置されている非常灯は30分程度もつ。

- ①各階の非常ベルも30分程度使用可能（停電時バッテリー使用、常時通電）
- ②各部屋の非常ベルも30分程度（電源は各階の非常ベルと同じと思われる）
- ③各部屋の天井火災警報器（全戸2009年9月末に設置、管理組合）

本品：交換目安10年（市販されていない専用電池使用）、電池切れ・センサー異常の自動監視機能有、月に1度のテスト（写真のスイッチ参照）実施、取説より。

3. 共同備蓄品（2020年10月現在、写真：非常階段屋上出入り口）



主な物：水（飲料水2060本、生活水2060本）、カセットコンロ（ガスボンベ）6台、簡易便器6台・囲い4基、カロリーメイト（2個入り180袋）、各戸配布（便袋20枚、消火スプレー期限2015.5）以上。

4. 各戸対策

河川の氾濫で在宅避難が長引く場合を考えて、備蓄は多めにする。籠城準備、バスタブや洗濯機に水を溜める、携帯ラジオ・懐中電灯の用意、トイレ便袋の確認などなど。



(1) 個別備蓄（備蓄品を考えよう）

- ①停電・断水・孤立状態を念頭、②最低3日分の食料・日用品備蓄（復旧待ちの時間？1週間分の備蓄？ 備蓄専用というより日常使いを考慮すると、より有効。）

(2) 持病等の薬、吸引、酸素ボンベなどを含む電動医療器具等の事前対策

- (3) 地震時の家具の転倒防止も含め、飛来物によるガラス飛散防止等の対策
- (4) 緊急時の連絡先、保険証、常備薬のリスト作成等を含めた、貴重品の管理。

5. その他、災害情報の収集手段

* (1)、(2)の登録は、区のホームページからの登録あるいは報道広報課 (tel3880-5815) で申込書記入。(3)は、事前に「LINE (ライン) アプリ」をスマートフォンやパソコンに取り込んだ上で、友だち登録が必要です (区のホームページ参照、利用者登録)。

- (1) あだち安心電話 (固定電話・携帯電話・スマートフォン)



「非難準備・高齢者等避難開始」が発令された際、電話 (自動音声) でお知らせ。

- (2) Aメール (携帯電話・スマートフォン・パソコン)

「防犯・防火情報」、「気象情報」、「避難所の開設」などの災害情報をメールでお知らせ。

- (3) 足立区 LINE (スマートフォン・パソコン)

「風水害・地震災害情報」、「緊急情報や重要なお知らせ」、「あだち広報 (月 2 回)」の配信や「区ホームページ」、「コロナ情報」がすぐに見られる。A メールと併せて利用するとよい。

- (4) nhk 防災アプリ (スマートフォン・パソコン)

主な機能 NHK が取材した最新ニュースを掲載。・社会、災害、政治、ビジネス、各地の天気予報。(気象や災害の情報を確認。・雨雲の動きを地図上に掲載。・台風の進路予想。・河川の洪水などに関する情報も掲載。・ハザードマップを搭載。) インターネットより「NHK ニュース・防災」アプリをダウンロード

6. コロナ禍における水害時の避難所 (第十一中学校) に避難する場合

避難所開設は①荒川氾濫予想時、すべての避難所開設 ②荒川以外の河川氾濫予想時、個別対応とする。また、避難所の過密を避けるために分散避難 (避難所・自宅・広域避難) を原則とする。

さらに、感染症対策 (2m 間隔) を講じた場合、第十一中学校の受入れ人数の試算は 120 人ほど。しかし命を守る緊急避難において、避難者を制限することはしない。人命優先 (2019 年の台風時避難者約 350 人)。避難所運営は、区派遣職員、学校関係者、町会・



自治会防災委員及び避難者からの募集ボランティアが主体となる。(状況によりますが、当自治会防災委員は、当マンションにて在宅避難対応にあたることになると思います。)

* 避難する場合は、お隣、防災委員にその旨連絡願います。(所在確認)

- (1) 避難する際は、各自、感染予防対策をし、2 食分、上履き、非常備品、持参のこと。
- (2) マスク着用、検温、避難者カードの記載にて受付をする。
- (3) 浸水が及ばない上階の居室を利用する。発熱者専用居室、ペットの場所を別途確保する。
- (4) 毛布配布。避難が長期化する場合には水・非常食等を配布する。
- (5) 避難所運営に協力、指示があるまで勝手に退出しない。

以上。